

co·op

三重の生協の
今を伝える



No.107

2015年2月

三重県生活協同組合連合会

〒514-0003 三重県津市桜端2丁目135 ハイツフジタ1F
TEL.059-228-9913 FAX.059-228-9915

私たちが安心して、
地域の中でくらしていくために
～核兵器のない平和な社会を目指して～

今年度の三重県生協大会は
「平和」をテーマに開催します。

三重県生協大会は、情勢に応じて、生協活動の社会的認知を高め、地域づくりに参加する取組みとしてすすめています。今年度は、2015年NPT再検討会議開催と三重県全29市町が核兵器廃絶に向けた平和首長会議に加盟していることをうけて、「平和」をテーマに「三重県平和フォーラム」として開催します。

核兵器廃絶と戦争のない平和な社会づくりにむけて、三重の地でそれぞれの立場で話し合える機会とし、私たち一人ひとりができるこことを出し合っていきましょう。

生協大会／三重県平和フォーラム

●日時／会場

2015年2月21日(土) 13:00~16:00
津アストプラザ4階・アストホール

●主な内容

- 基調講演 秋葉忠利氏(前広島市長)
- ヒロシマ・ナガサキ平和行動等に参加した学生・子どもからの発表
- 核兵器廃絶にむけたフォーラム
コーディネーター／児玉克哉氏(三重大学副学長)
パネリスト(予定)／松阪市長、鳥羽市長、菰野町長、コープみえ・副理事長、広島大学学生(前回NPT代表派遣者)



ヒロシマ・ピース・オフィス代表 前広島市長
秋葉 忠利 略歴・プロフィール

1942年、東京生まれ。東大理学部数学科・同大学院修士課程卒業。マサチューセッツ工科大学(MIT)でPh.D. を取得後、ニューヨーク州立大学、タフツ大学等で教鞭をとる。
1990年から衆議院議員を10年近く務めた後、1999年に広島市長就任。
市長在職中、平和市長会議会長を務め、当初は参加都市数が440ほどであった組織を、約5,000の都市が加盟・賛同する組織に育てる。



ヒロシマ・ピース・オフィス代表
前広島市長 **秋葉 忠利**

一人は万人のために 万人は一人のために

生活協同組合
コープみえ

みえ医療福祉
生活協同組合

三重県学校
生活協同組合

三重大学
生活協同組合

三重短期大学
生活協同組合

三重県立看護大学
生活協同組合

三重県生協大会

一番たいせつなもの、平和

生協大会「三重県平和フォーラム」を開催します。

NPT(核不拡散条約)は、核兵器の拡散を防止するための国際条約で、国連加盟国193か国のうち、190か国が加盟しています。この条約がきちんと守られているか、今後の取り組みを話し合うために、国連本部(ニューヨーク)で「再検討会議」が、この2015年4~5月に開催されます。

三重県生活協同組合連合会では、現地に代表者を派遣し、国連周

辺でのアピール行動や「核兵器禁止条約の交渉開始を求める署名提出等に参加していきます。

1945年広島・長崎に投下された原子爆弾では、その年のうちに約21万人が亡くなり、爆風・熱線・放射線で都市は破壊され、70年の歳月を経た今でも放射線による影響は被ばく者の人々を苦しめています。

現在もなお、約17,000発の核

兵器があり、たとえ1発でも使われてしまえば、どのような悲惨な結果を生むのか、私たちはヒロシマ・ナガサキから学ぶことができます。核兵器のない、平和な社会にむけて、一人ひとりからできることを考え、取組みがすすめられていくために、生協大会/三重県平和フォーラムを開催します。

消費者問題

巧妙な悪質商法。被害が増えないために

三重県の消費者問題・情勢学習と交流会を開催します。

三重県の消費者被害状況は、手口が多岐にわたって巧妙化し、高齢者を中心に被害額が増え、被害は深刻です。また、悪質商法に騙されても、そうと気づかず、だれにも相談されない方、できない方も大勢おられます。

被害防止の取り組みでは、三重県・市町行政をはじめ、各地域では消費者団体のみなさんが日頃から啓発活動をされていますが、まだまだ多くの住民の方に情報が行き届いていません。

生協・生協連合会においても、

消費者力を高め、被害にあわない啓発の取り組みをすすめています。三重県での消費者被害の状

況を知り、今後の防止に向けて、意見を出し合う交流会を開催します。

開催日時/会場

2015年2月23日(月)
10:00~11:45
アスト津 会議室1

開催主旨

- ・三重県における消費者問題の情勢を知り、行政・消費者団体・県民のみなさん・生協で被害防止を考えていきます。
- ・出されたご意見が今後の被害防止への取り組みに生かされ、つながっていくきっかけとしていきます。

内容

- 1) 消費者被害の情勢学習
講師 三重県消費生活センター
- 2) 地域の実践事例報告
「名張市消費者被害防止ネットワークプロジェクト」の取組み
名張市 市民部 総合窓口センター
情報相談担当室長 山田 喜弘氏
- 3) 情報交流



TPP

TPP(環太平洋経済連携協定)で
「わたしたちのくらしはどうなる!?'講演会・
シンポジウムを2014年12月に開催しました。

TPP交渉の場でロビー活動等を実際に見聞きされている、アジア太平洋資料センター事務局長の内田聖子氏を講師に迎え、国際情勢を知る講演会を開催しました。

また、講演会に引き続き開催したシンポジウムでは、三重短期大学の石原洋介氏をコーディネーターとして、岩月浩二氏(弁護士)・櫻谷勝美氏(三重大学名誉教授)をパネリストに、医療・食品安全・経済と関税・ISD条項・SPS協定など農業だけではない暮らし全般に関わるTPPの仕組みについて、学び、意見が出し合われました。

引き続き、生協・生協連として、わたしたちのくらしに密接にかかわる重要な問題として、TPP交渉、及び参加について考える機会と問題提起等をおこなっていきます。



2014年12月7日
TPP講演会・シンポジウム

食の安全

2015年6月 食品表示がかわります
「食の安全に関する法令と表示の学習会」
を県から講師をお招きし、開催しました。

消費者基本法の理念を踏まえて、食品表示をわかりやすく、役に立つものとしていくために、食品衛生法・JAS法・健康増進法に基づく表示基準が6月から一本化されます。

変更のポイントとなる、アレルギー表示に関するルールの改善、栄養成分表示の義務化などを中心に、三重県健康福祉部 食品安全課 食品表示班から講師をお招きし、学習会を開催しました。また、食品表示としては、消費者の関心の高い、原料原産地表示についても、表示制度の理解が深まるよう、意見交換を行いました。

今回の変更に際して、消費者庁からの内容確定や情報が遅れている状況ですが、生協・生協連として、今後も県民のみなさんに広く情報発信をおこなっていきます。



2014年12月7日
食品表示の学習会

支援活動

3.11を忘れない

店も顧客も喪失、ゼロから始める経営再建

廃業か再建か。仮設商店街の商店主たちはこの4年間、何度も岐路に立たされてきました。顧客だった地域住民は被災で散り散りになり人口も減少。加えて資金や後継者の問題などもあり、「再建して果たしてうまくいくのか…」。将来への不安と希望のあいだで揺れ動く日々を送ってきたのです。

2014年10月、気仙沼市の「鹿折復興マルシェ」が、嵩上げ工事のため元

みやぎ生協から
被災地・宮城の
いまをお伝えします。

の場所から移転し再オープンしました。ただしそこも区画整理事業のため2016年8月末には閉鎖になります。

他の仮設商店街でも、「しおがま・みなし復興市場」が2016年8月末まで、「南三陸町さんさん商店街」が2016年11月末までと存続期限が決まっており、復興事業の進展の中で商店主たちは新たな決断を迫られています。

山元町合戦原の仮設商工施設で理容室を営む辻憲子さんは、新市街地に店舗兼住宅を建て営業を再開する予定です。「土地の引き渡しが今年9月、店舗の完成はその先だからまだまだ時間がかかりますね」。

震災後の住民離散で、辻さんの店も大勢の顧客を失いました。仮設商工施設への入店後は、隣接する仮設住宅か



▲辻憲子さん。店舗再建費用の75%は補助金で、残りは自己資金です。「土地も住む家も買わなきゃならない。娘夫婦はいますが返済はやはり重たいですよね」とお孫さんの顔を見ながら。

らの来店客が増えましたが、新市街地へ移転すればそれもまた変わります。

固定客相手の商いであるはずなのにその顧客は、いまも流動的な状態が続きます。「新市街地も、以前住んでいた地区とは大きく環境が変わるので不安ですよね」。

店も顧客も失い、マイナスから出発した商店主たちにとって、本格再建は決してゴールではなく、ようやくゼロ地点に立ったようなもの。1年後、2年後の本格再建で再び経営の試練と向き合うことになるのです。



▲辻さんの理容室のほか美容室、漬物工房、塾、飲食店、卸倉庫など6店舗が向い合せに並ぶ合戦原地区的仮設商工施設。

コープみえ

生活協同組合コープみえでは、組合員を中心に地域でまなびあっていく、「コープまなびのわ」を開催しています。

「コープまなびのわ」は、暮らしの課題を学び、参加者の一人ひとりが考えあい、自分にできることを見出していく場です。

2014年12月～2015年1月にかけては、「平和」をテーマに、被ばく者の方の語り継ぎをお聞きし、自分なりに想うことを探して話し合いました。長く続く被害によって苦しめられているのは、日本の被ばく者だけではありません。世界各地での核兵器の開発、製造、実験、備蓄、使用等によって、さまざまな被害も伝えられています。

また、「コープまなびのわ」2～3月の企画予定は、テーマ「食の安全」を予定しています。

会員生協
だより



コープまなびのわ 2014年12月：桑名会場



理事会 だより

第4回

協議決定事項

- ・第39回通常総会の開催日程・会場、NPT再検討会議・代表派遣の報告会について
- ・2014年度／三重県生協大会の内容について
- ・2015年NPT再検討会議にむけた取組み／日本被団協への募金について

協議事項

- ・集団的自衛権の行使容認に反対し、平和憲法を改定させない取組みについて
- ・三重県生協連／災害対策マニュアル(骨子案)について

報告事項

- ・三重県農林水産部からの要請／三重県水産業・漁村振興懇話会への就任要請
- ・2015年NPT再検討会議にむけた取組みについて／進捗報告
- ・被災者生活支援制度の拡充を求める運動への協力／署名集約報告
- ・介護保険制度改革に向けた取組み／市町訪問の最終報告と今後にむけて
- ・委員会報告／食の安全委員会、平和活動委員会、生協大会実行委員会ほか

編集後記



寒い日が続きますが、2月ともなれば春の息吹を感じます。今号は、何より大事な平和な社会づくりにむけて、いま、生協・生協連が取り組んでいることをお知らせさせていただきました。一人ひとりが平和への想いに芽吹き、声を上げていけるようにしたいものです。

三重県生協連 事務局より



三重県からのお知らせ

食の 安心 安全
ミニ情報



お餅を安全に
食べるためには



お餅は日数が経つとカビが生えることがあります。餅の表面に生えたカビは十分に加熱すると死んでしまいますが、内部にはカビやカビ毒が残っています。カビ毒は取り除くことは困難です。もったいないですが、カビの生えた餅は食べないようにしましょう。

また、餅つき大会で作られた餅で食中毒が起きた事例があります。餅がノロウイルスに汚染されていたのが原因です。餅つきは食材を直接さわる機会が多く、菌やウイルスがつきやすいので、手洗いや器具の消毒を徹底しましょう。